

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 1 項に基づく

中津市教育委員会施策の  
点検・評価に関する報告書  
(平成30年度対象)

令和元年8月20日

中津市教育委員会



## 目 次

I	はじめに	1
1.	目的	1
2.	点検・評価の実施方法等	1
(1)	法定事項	1
(2)	実施方法	1
3.	自己評価及び総合評価の判定基準	2
(1)	自己評価について	2
(2)	総合評価について	2
II	点検・評価	3
1.	施策名と評価一覧	3
2.	評価の分析	5
3.	施策毎の目標、達成状況等	6
(1)	表の見方	6
(2)	各施策の内容	7
III	学識経験を有する者の知見	31
IV	おわりに	36

## I はじめに

### 1. 目的

平成 19 年 6 月に一部改正（平成 20 年 4 月 1 日施行）された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条第 1 項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理・執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされました。

そこで、中津市教育委員会では、教育委員会が立てた基本方針にそって具体的な教育行政が執行されているかについて、教育委員会自らが事後にチェックし、今後の効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たすため、この点検・評価を実施し、報告書にとりまとめました。

### 2. 点検・評価の実施方法等

#### (1) 法定事項

点検・評価の実施については、次の 4 点が法定事項になっています。

- ①毎年実施すること。
- ②教育委員会の権限に属する事務(教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務を含む。)の管理・執行状況について点検・評価を行うこと。
- ③点検・評価の実施に当たっては、学識経験を有する者の知見の活用を図ること。
- ④点検・評価結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表を行うこと。

#### (2) 実施方法

##### ①対象期間

平成 30 年度の管理・執行状況

##### ②点検・評価の項目について

中津市教育委員会では、市教育行政の長期的、総合的な指針として、「なかつ安心・元気・未来プラン 2017（第五次中津市総合計画）」（平成 29 年 3 月策定）及び「中津市教育振興基本計画」（平成 21 年 3 月策定、平成 29 年 3 月改訂）に基づき各種施策を推進しており、平成 30 年度は重点的な 25 項目について点検・評価を行いました。

##### ③学識経験を有する者の知見の活用について

教育に関し学識経験を有する者の知見活用にあたっては、教育に関して公正な意見を述べるのが期待できる人の知見を活用しました。

##### ④報告・公表方法

点検・評価結果に関する報告書は、定例市議会（教育産業建設委員会）に提出し、その後、中津市教育委員会のホームページに公表します。

### 3. 自己評価及び総合評価の判定基準

#### (1) 自己評価について

事業主管課長が、適応性・効率性・達成度の3つの着眼点で、5段階で自己評価しました。

評価項目	着 眼 点
適応性	①市民ニーズや社会の変化に対応しているか
	②同じ目的を達成するために他に手段はないか
効率性	③内容の見直しや重点化を行っているか
	④事業の円滑な推進のための調整を行っているか
達成度	⑤当初の目標どおりに進めることができているか

#### 【ランク説明】

ランク	着 眼 点
5	達成 (80%以上)
4	着実に進捗 (相当程度達成・79~60%)
3	やや不十分 (59~40%)
2	不十分 (39~20%)
1	抜本的見直しが必要 (19~0%)

#### (2) 総合評価について

教育委員会及び課長級で構成された中津市教育委員会施策評価実行委員会が、目標、達成度、自己評価を総合的に判断して、5段階で総合評価をしました。

ランク	着 眼 点
A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取り組みがいくつかあり、成果が見える
C	一定の成果が見られるが、更なる取り組みを要する
D	成果が上がってなく、改善を必要とする
E	抜本的見直しが必要

## II 点検・評価

以下に、平成 30 年度の具体的な施策内容、評価結果などについて報告します。

### 1. 施策名と評価一覧

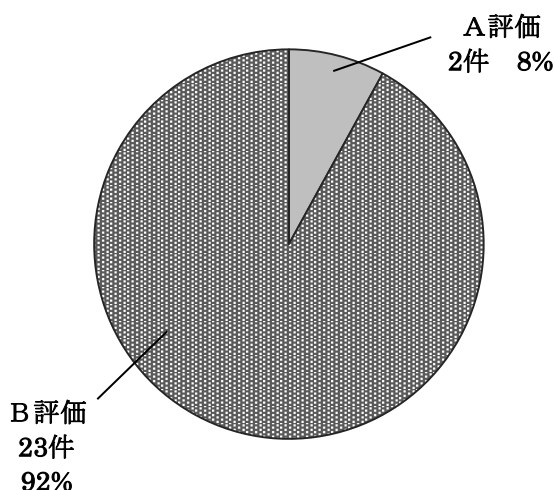
施策別 基本目標	基本姿勢	施策名	自己 評価	総合 評価	所管課
学びたい教育の まちづくり (学校教育)	学校教育の充実 (義務教育の充実)	1 授業改善による学力向上	4	B	学校教育課
		2 いじめ・不登校未然防止の強化	4	B	学校教育課
	学校教育の充実 (小・中・高・短期 大学との連携促進)	3 グローバル人材の育成	4	B	学校教育課
	学校教育の充実 (幼児教育の充実)	4 魅力ある教育課程の編成 幼保小・民間事業所との連携	4	B	学校教育課
	学校の適正規模・適 正配置指針検討	5 学校の適正規模・適正配置指 針検討	4	B	教育総務課
	安心安全な学校施設 の計画的整備促進	6 安心安全な学校施設の計画的 整備	4	B	教育総務課
	学校給食の充実	7 地産地消の推進	4	B	体育・給食 課
学びたい教育の まちづくり (生涯学習・産 業教育の推進)	生涯学習の推進	8 生涯学習推進基盤の整備	4	B	社会教育課
		9 学習機会の拡充と学習効果の 活用	4	B	社会教育課
		10 学習交流施設の活用	4	B	社会教育課
	教育の協働	11 中津市地域協育振興プラン推 進事業	4	B	社会教育課
	生涯学習センター 「学びん館」	12 生涯学習センターの事業充実	5	A	社会教育課
	産業教育の推進	13 キャリア教育及び職場訪問、 職場体験の充実	4	B	学校教育課
		14 多様な体験の場の活用	4	B	社会教育課
図書館の充実	15 図書館機能・読書活動の充実	5	A	小幡記念図 書館	

施策別 基本目標	基本姿勢	施策名	自己 評価	総合 評価	所管課
学びたい教育の まちづくり (文化・スポーツの推進)	スポーツの振興	16 生涯スポーツの推進	4	B	体育・給食課
		17 競技力向上及びジュニアの育成	4	B	体育・給食課
		18 市民ニーズに応えるスポーツ施設の整備や多機能多目的な施設利用	4	B	体育・給食課
		19 東京オリンピック・ラグビーワールドカップ等事前キャンプ地誘致活動	4	B	体育・給食課
	文化・芸術活動の推進	20 文化施設の充実	4	B	社会教育課
		21 文化芸術活動の推進	4	B	社会教育課
	歴史と文化の伝承	22 資料館活動の充実	4	B	社会教育課
		23 文化財保護体制の確立	4	B	社会教育課
		24 文化財の保存・活用	4	B	社会教育課
学びたい教育の まちづくり (教育委員会活動の充実)	教育委員会活動の充実	25 教育委員会の機能強化	4	B	教育総務課

## 2. 評価の分析

教育委員会及び課長級で構成された中津市教育委員会施策評価実行委員会が、目標、達成度、自己評価を総合的に判断して、5段階で総合評価したところ、A評価2件、B評価23件となりました。

各課では教育の向上を図るために、毎年より高い意識を持って施策の目標設定を行っており、その達成に努めています。



ランク	着 眼 点
A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取り組みがいくつかあり、成果が見える
C	一定の成果が見られるが、更なる取り組みを要する
D	成果が上がってなく、改善を必要とする
E	抜本的見直しが必要

その結果、25項目ある施策の概ねが、優れた取り組みにより着実に成果が見える状況であります。

特にA評価の施策である「生涯学習センターの事業充実」では、生涯学習センターの利用者数や利用回数は着実に増加していることや、生涯学習大学の受講者数の増加、健康エアロビクスやパン教室等の新規サークルの誕生など生涯学習に対する継続的な取り組みを行った成果が表れております。

「図書館機能・読書活動の充実」では、前年に比べ図書館の利用者数・貸出冊数ともに増加していることや「おはなし会」、「あかちゃんタイム」・学校連携などが評価され、『子どもの読書活動優秀実践図書館』として文部科学大臣表彰を受賞するなど、優れた取り組みが多く十分な成果を上げることができました。

また、本年度は、全ての施策において優れた取り組みが見受けられ、更なる取り組みを要するものや改善を必要とするものなどの評価はありませんでしたが、今後においても、引き続きより高い目標の達成を目指し、施策の設定及び評価を継続して取り組んでいきたいと考えています。



### 3. 施策毎の目標、達成状況等

#### (1) 表の見方

表の項目について、大、中、小とありますが、これは、それぞれ大分類（施策別基本目標）、中分類（基本姿勢）、小分類（施策名）を指しています。

大 分 類		中 分 類	
1	学びたい教育のまちづくり (学校教育)	A	学校教育の充実（義務教育の充実）
		B	学校教育の充実（小・中・高・短期大学との連携促進）
		C	学校教育の充実（幼児教育の充実）
		D	学校の適正規模・適正配置指針検討
		E	安心安全な学校施設の計画的整備促進
		F	学校給食の充実
2	学びたい教育のまちづくり (生涯学習・産業教育の推進)	G	生涯学習の推進
		H	教育の協働
		I	生涯学習センター「学びん館」
		J	産業教育の推進
		K	図書館の充実
3	学びたい教育のまちづくり (文化・スポーツの推進)	L	スポーツの振興
		M	文化・芸術活動の推進
		N	歴史と文化の伝承
4	学びたい教育のまちづくり (教育委員会活動の充実)	0	教育委員会活動の充実

(2) 各施策の内容

No	分類			目 標
	大	中	小	
1	1	A	授業改善による学力向上	<p>平成 30 年度全国学力・学習状況調査において、正答率の合計が全国・県平均を上回っている学校が、小学校 18 校、中学校 6 校以上となるよう取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○チーム学校による組織的取組 研究主任を核とする組織的な授業改善 データをもとに課題の共有・取組方向の一致</li> <li>○市調査に活用問題新設 学び直し・活用力育成時間の設定（「学びのススメ塾」活用）</li> <li>○小中連携した言語能力の育成</li> <li>○好実践の共有フォルダ充実・実践の拡大</li> </ul>
2	1	A	いじめ・不登校未然防止の強化	<p>不登校（不登校を理由に年間 30 日以上欠席）の児童生徒数の減少を目指す。 （目標値 小学校出現率 0.2%、中学校出現率 2.0%） また、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を徹底する。 （目標値 いじめの解消率 小学校 98% 中学校 98%）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめ・不登校を生まない土壌づくり <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びに向かう学校づくり、生徒会活動の活性化</li> <li>・生徒指導 3 機能（自己決定の場、自己存在感、共感的人間関係）を生かした教育活動の推進</li> </ul> </li> <li>○組織的な早期発見・早期対応の取組 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会の実施（新設）、相談体制の強化、個票作成</li> <li>・学校いじめ・不登校防止対策委員会の充実（スクールカウンセラー（SC）と連携）</li> </ul> </li> <li>○スクールソーシャルワーカー（SSW）の増員、スクールカウンセラー（SC）の市単独配置</li> <li>○学校問題解決支援チーム、適応指導教室との連携、育成をめざす子ども像の保護者との共有</li> </ul>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○平成 30 年度全国学力・学習状況調査において、正答率の合計が全国・県を上回っている学校は、小学校 16 校、中学校 5 校であった。 小・中学校とも、目標を達成することができなかったが、小・中学校とも学校数は増加した。 (小学校 H29 : 13 校→H30 : 16 校、中学校 H29 : 4 校→H30 : 5 校)</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○達成率は小学校 89%、中学校 83%であり、目標達成にはいたっていない。達成できていない学校は大規模校であるという課題が残っている。</p> <p>○確実に全体の学力は向上しているので、今の取組を継承し、さらに大規模校による取り組みを重点的に行い、さらなる中津市全体の授業改善による学力向上を目指していく必要がある。</p>	4	B	学校教育課
<p>○平成 30 年度 (平成 31 年 3 月末現在)、不登校 (不登校を理由に 30 日以上欠席) の状況にある小学校出現率は 0.44%、中学校出現率は 2.86%であった。</p> <p>○いじめの認知件数は、小学校は 1331 件 (解消率 86.0%)、中学校は 141 件 (解消率 78.0%) であった。 いじめの認知件数の増加は、早期発見のための認知精度向上のものと捉える。また、「いじめ解消の定義」が変更され、3 カ月以上事案を慎重に見守ることにより、解消率は目標数値に比べ減少となった。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○市全体として、「生徒指導 3 機能を生かした授業改善による魅力ある学校づくり」を積極的に推進することにより、不登校の未然防止に努める。</p> <p>○長期欠席者について個票を作成し、指導経過を明確にし、組織的に支援することを継続する。→「あったかハートなかつ」の継続実践</p> <p>○各学校のいじめ不登校対策委員会を充実させ、校内組織の強化を図る。 (指導主事、スクールソーシャルワーカー (SSW)、スクールカウンセラー (SC) の参加)</p> <p>○スクールソーシャルワーカー (SSW : 5 名) とスクールカウンセラー (SC : 1 名) を最大限活用し、早期対応を図る。</p> <p>○継続的に支援の必要な児童生徒については、個別の支援シートを作成し、必要に応じて関係機関と連携を図りながら、継続的な支援を行う。</p>	4	B	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
3	1	B	グローバル人材の育成	<p>求められる英語力（英検 3 級取得者+3 級以上相当の力）を有する中学 3 年生の割合が 30%以上とする。</p> <p>ジュニア・グローバル・リーダー研修への応募者、A P U 交流、英語弁論、わくわく英語ひろばの参加者の拡大を目指す。</p> <p>○参加する教員の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中外国語合同部会の実施、A L T との積極的な合同研修</li> </ul> <p>○「学びのススメ英検塾」の受講者及び英検受験者の拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今津中モデルの拡大、高校との授業連携</li> </ul>
4	1	C	魅力ある教育課程の編成 幼保小・民間事業所との連携	<p>「中津市幼児教育振興プログラム」についての研修・実践交流を推進する。</p> <p>幼保小連携協議会の一層の充実、円滑な接続に向けた取り組みの充実を図る。</p> <p>○「中津市幼児教育振興プログラム」に係る官民一体となった研修会の実施</p> <p>○支援が必要な子どもに対する関連機関と連携した支援体制の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あすなるファイル」「個別の指導計画」の活用</li> </ul>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○求められる英語力(英検3級取得者)を有する中学3年生の割合は22.9%であった。</p> <p>○ジュニア・グローバル・リーダー研修への応募者、APU交流、英語弁論、わくわく英語ひろばの参加者(前年度との比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジュニア・グローバル・リーダー研修応募者(19名→25名)</li> <li>・APU交流(20名→21名)</li> <li>・英語弁論(13名→7名)</li> <li>・わくわく英語ひろば(10名→23名)</li> <li>・英検塾参加者(260名→234名)</li> </ul> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○求められる英語力(英検3級取得者+3級以上相当の力)を有する中学3年生の割合50%を達成するために、英検塾を継続するとともに、言語活動を通じた4技能の向上に向けて中学校の英語の授業改善の推進に取り組んでいく。</p> <p>○ジュニア・グローバル・リーダー研修の希望者が増加していることから、来年度は、APUで行う2泊3日のイングリッシュキャンプを新規で行うこととしている。</p> <p>○小・中・高・短大の連携についても、来年度も互いに授業交流を呼びかけて生徒の円滑な接続が図れるように推進していく。 また、来年度中学校1校でGTECを取り入れることから、高校とのGTECに関して情報交換・共有も行っていく。</p>	4	B	学校教育課
<p>○中津市乳幼児教育振興プログラム作成に深く携わった、西南学院大学の門田教授を招き講演会・研修会を実施し、小学校教諭や学童職員等、遊びを通じた幼児教育の重要性に対する理解を広げた。</p> <p>○保幼小連携協議会では、小学校区ブロックごとスタートカリキュラムを共有し、育ちの連続性を意識した情報交換を実施した。</p> <p>○授業見学・交流会等を実施し、円滑な接続に向けて取組を進めた。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○保幼小連携研修会において、交流会の実践発表や保育の事例報告等を行い就学前後の保育・教育の相互理解を図る。</p> <p>○「中津市幼児教育振興プログラム」を活用した研修を実施する。</p>	4	B	学校教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
5	1	D	学校の適正規模・適正配置検討指針	<p>教育委員会において、小規模校のあり方を継続して協議を行う。</p> <p>○教育委員会において継続的な協議 (随時、状況報告及び今後の方針等について協議を行う。)</p>
6	1	E	安心安全な学校施設の計画的整備	<p>老朽化対策及び教育環境の改善に努めるため、学校施設の長寿命化改修、大規模改修、トイレ洋式化改修等行う。 また、施設毎の中長期的な維持管理・整備計画となる長寿命化計画策定に取り組む。</p> <p>○学校施設の長寿命化改修、大規模改修、トイレ洋式化改修 (国庫補助金の確保及び対策、トイレ洋式化改修率 65%目標)</p> <p>○長寿命化計画策定の事前準備作業 (抽出データ作業、整理等)</p>
7	1	F	学校給食の充実	<p>J Aや漁協、市の関係各課等と連携を密にして地場産野菜等の品目と使用量の拡大を図り、新たな生産者組織や後継者の育成等に関係機関と協議する。</p> <p>○学校給食地産地消推進会議を通じて、農政水産担当部署、J A、漁協、生産者等と地場産食材の利用拡大に取り組み、生産者の育成等に関する協議の場とする。</p> <p>○地場産食材を活用した新献立を開発する。</p> <p>○地場生産者が不在となった本耶馬溪調理場管内の新たな野菜生産者又は地場産納入業者を探す。</p> <p>○地産地消献立を通じて、子どもたちに学習意欲や郷土への関心を感じさせる工夫に努める。</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○定期的な進捗管理にて、状況を把握し、継続的に協議を行った。また、支所関係課と連携し、協議を行った。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○常に学校の状況を注視しつつ、「子供のために」「地域住民のために」を念頭に置き、協議が途絶えることがないように継続した協議が必要である。</p>	4	B	教育総務課
<p>○学校施設の長寿命化改修、大規模改修、トイレ洋式化改修等については、常に国庫の動向に注視し、一部前倒しするなどして国庫補助金の確保に努めた。そのことにより、概ね計画通りの施設改修に努めることが出来た。(トイレ洋式化改修率 64%)</p> <p>○長寿命化計画策定の事前準備作業(抽出データ作業、整理等)については、十分ではないが必要なデータ収集に努めることができた。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○学校施設整備については、国庫補助金を最大限活用し予算を確保することに努め、学校施設の整備・改善を引き続き行う。</p> <p>○長寿命化計画の早期策定に向けて事務執行に努める。</p>	4	B	教育総務課
<p>○栄養教諭が中心となり「耶馬溪のおちやまめ」、「中津ピーマンのチンジャオロースー」、「しか肉のドライカレー」等の地元産食材を使った新献立の開発を行った。ジビエについては各調理場とも従来は学期に一度程度の提供であったが、30年度は補助金を活用し回数を増加することができた。</p> <p>○地産地消会議では、各関係者から子供たちにたくさんの中津産食材を食べてもらいたいと様々な議論が交わされたが、地元産野菜の利用率については、高齢による協力農家の減少や天候の悪影響等で安定した供給が難しく、平成29年度10%に減少したまま横這いである。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○よりたくさんの中津産食材を効率よく使用できるよう、各関係者と各調理場で個別に協議を行っていくことが必要である。各関係者と連携し、子供たちにより多く安全で安心な地元産食材を提供できるように工夫していきたい。</p>	4	B	体育・給食課

No	分類			目 標
	大	中	小	
8	2	G	生涯学習推進基盤の整備	<p>公民館、コミュニティーセンターの利用促進や社会教育施設の整備、中津市生涯学習大学の充実と受講者の確保に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○社会教育関係者（社会教育委員、公民館長、社会教育指導員、関係職員等）の研修、実践による資質の向上による魅力ある学習内容の提供と新規講師の掘り起こし。</li> <li>○自主運営を行っている中津市生涯学習大学への積極的な人的支援及び専門的支援。</li> <li>○和田コミュニティーセンター建設事業（造成工事、外構設計）</li> <li>○老朽化した公民館の設備等の改修事業を実施</li> </ul>
9	2	G	学習機会の拡充と学習効果の活用	<p>新規学習者の獲得、サークルの育成、「ふるさと学習」の推進について取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○市民ニーズにあった魅力的な学習や実際の生活や地域づくりへとつながる学習、それらの学習のための講師等、新規人材の開拓とサークル等自発的学習への支援。</li> <li>○子どもたちが主体的に参加でき、体験活動を重視した「ふるさと学習」の実施。 （福沢諭吉記念事業、子ども中津検定・ワンパク！たんけん中津、青少年地域活動事業、公民館独自講座 等）</li> <li>○子ども中津検定公式ガイドブックの副教材化。</li> </ul>



達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○公民館、コミュニティーセンター（山国公民館除く）の利用者数は、211,271人（前年度209,707人）で前年度より微増した。</p> <p>○生涯学習センター「まなびん館」で開催している生涯学習大学は、受講者実人数は577人（前年度571人）で増加している。生涯学習センター全体では、25,964人（前年度25,768人）で前年度より微増した。</p> <p>○施設整備については、和田コミュニティーセンター建設にかかる造成工事や各公民館の老朽化箇所等に対する改修、修理等を適宜行なった。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○公民館、コミュニティーセンター、生涯学習センターにおいて、公民館長や社会教育指導員と社会教育課職員が情報交換を図りながら、各種講座の受講者を増やすための魅力ある学習プログラムの開発や市民ニーズの把握に努めていく。</p> <p>○サークル活動については、新規サークルの育成やサークルが利用しやすい環境づくりを行っていく。</p>	4	B	社会教育課
<p>○各地区公民館の生涯学習教室、女性学級、家庭教育学級の受講生は、ほぼ横ばいであり、高齢化により、存続できないサークルが出てきている。</p> <p>○福澤諭吉記念中津市近郊小中学校書写展は出品数が2,099点（前年度2,531点）で昨年度より減少している。</p> <p>○第10回「諭吉かるた」大会には、小学生低学年14チーム、高学年21チーム計35チーム総勢131人の児童が参加した。参加児童は年々増加傾向にある。</p> <p>○子ども中津検定には、65人（4年生11人、5年生26人、6年生28人）の参加があり、1級13人、2級18人、3級11人であった。（満点3人）公式ガイドブックの副教材化には至らなかった。</p> <p>○玖珠町との合同で開催した「ワンパク！たんけん中津・玖珠」には中津から24人、玖珠から12人の参加があった。</p> <p>○青少年地域活動事業（三保小学校人形劇クラブ）には10人（5年生4人、6年生6人）の参加があり、2月4日の万年願（北原人形芝居）の公演に向けて、毎週金曜日の放課後に人形芝居の練習を重ねた。</p> <p>○南部公民館の講座で、中津少年少女ふるさとクラブを立ち上げ、小学生4人（5年生2人、6年生2人）が公民館の歴史サークルの方々の指導を受け、ジュニア歴史ガイド育成講座を受講した。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○市民ニーズを的確に把握し、魅力的な学習や、講師等の新規人材の開拓、新規サークルの立ち上げや既存サークルの育成を公民館長、社会教育指導員らと連携を強化しながら、受講者の獲得に努める。</p> <p>○「なかつ学びんピック（子ども中津検定）」公式ガイドブックの副教材化に向けて、学校教育課と連携を強化して取り組む。さらに、福澤諭吉に関する検定に向けて、中学生用の「ジュニア諭吉検定（仮）」公式ガイドブックを作成する。</p>	4	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
10	2	G	学習交流施設の活用	<p>平成 31 年度のリニューアルオープンに向け、施設整備及び活用方針を固める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習交流施設の耐震化及び改修工事の実施（耐震補強、内外装、電気設備、トイレ改修、空調設備整備）</li> <li>○慶応義塾大学との連携強化について、検討組織を立ち上げ、大学側と具体的な協議を進める。</li> </ul>
11	2	H	中津市地域協育振興プラン推進事業	<p>中津市地域協育振興プラン推進事業の実施を通して、地域づくりに貢献できる人材の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○三光中学校区の「ほめあうまち なかつ」推進事業により、ネットワーク会議を基盤にした三光公民館運営委員会の「めざそう！あいさつ世界一」運動の取り組みを一層充実させ、その成果を市内に発信していく。</li> </ul>
12	2	I	生涯学習センターの事業充実	<p>通年・短期講座受講者数の増加、中津市生涯学習大学の充実と受講者の確保、利用サークルの増加を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ニーズの把握による開設講座の見直しと学習内容の充実。</li> <li>○生涯学習センター「まなびん館」の周知。</li> <li>○学習しやすい施設、設備の充実と日常の環境整備。</li> </ul>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○学習交流施設の耐震化及び改修工事については、当初の見込みより建物の腐食が進んでおり、工期の延長が必要となったことから年度内に工事を完了することができなかった。</p> <p>○慶応義塾大学との連携強化のため、平成 30 年 6 月に中津市と慶応義塾大学で構成する「新中津市学校開設準備委員会」を立ち上げ、新中津市学校設立構想の相互理解、開設後の共同研究等について協議を行った。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○8 月の開館に向け、具体的な事業計画を立てるとともに、開館後の運営について「新中津市学校運営委員会」を立ち上げ協議していく。また、慶応義塾大学の協力のもと開館記念行事を開催する。</p> <p>○開館後は、各種事業の実施や効果的な広報活動により、市民の学びの拠点として、多くの市民に利用していただける施設づくりに取り組む。</p>	4	B	社会教育課
<p>○三光中学校区をモデルとした「ほめあうまち なかつ」推進事業では、三光公民館運営委員会が推進会議となり H29 から本格実施している三光地区の地域づくり活動「めざそう！あいさつ世界一～あいさつから始まる ほめ合うまちづくり～」運動がさらに充実した。また、事前・事後にアンケート調査を実施し、その成果を、3月に開催した中津市「協育」フォーラムで報告した。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○「ほめあうまち なかつ」推進事業は、3年間補助を受け一定の成果をあげてきたが、それが地域において継続的、日常的に定着させることは、大変難しい。これまでのように、学校、家庭、地域の代表者で組織している公民館運営委員会や校区ネットワーク会議等を活用して、中津市全域にこの取組みを展開していく。</p>	4	B	社会教育課
<p>○生涯学習センター利用者は、25,954人（前年度 25,768人）と前年度より微増だが、利用回数は、1,874回（前年度 1,628回）と前年度より大きく増加している。</p> <p>○生涯学習センター「まなびん館」で開催している生涯学習大学は、受講者実人数は577人（前年度 571人）と前年度より増えており、サークルについても、期間限定の短期講座などの受講生が継続した学習を望み、健康エアロビクスやパン教室など新規サークルも生まれている。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○市民の生涯学習の中心的な社会教育施設としての機能を維持しつつ、市民ニーズを的確に把握し、それを生かした新しい学習の場をさらに増やしていく。また、多くの利用がある生涯学習大学の継続、活性化に努める。</p>	5	A	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
13	2	J	キャリア教育及び職場訪問、職場体験の充実	<p>職場訪問・職場体験の充実を図る。  (目標 職場体験受け入れ事業所数 300 カ所)</p> <p>○関係団体との積極的な連携  ○短期大学等との積極的な連携</p>
14	2	J	多様な体験の場の活用	<p>子どもたちが、正しい職業観を身につけ、自分の将来を考える時に選択の幅が広がるような多様な体験の場を提供する。</p> <p>○「職人フェスティバル」の実施。  ○少年少女発明クラブの充実。</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○庁内各課や中津商工会議所と連携し、職場体験の受入先や社会人講話の人材を紹介してもらい、現在、事業所や社会人講話の講師の登録システム、市内各学校用の冊子を作成中である。</p> <p>○職場体験受け入れ事業所数は、延べ 296 カ所であった。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○学校においては、職場体験の事業所や社会人講話を実施するにあたり、教職員や保護者の伝手で事業所や講師を探している。</p> <p>また、学校所在場所によっては、職種に偏りや希望する職種がなかったりすることもあり、市の関係機関に（庁内、中津商工会議所等）協力を依頼し、新規を含め、事業所のリストアップを図っている。</p> <p>本取組の充実や効率化を図るため、事業所からホームページにアクセスし、登録できるようなシステムを構築し、拡充を図っていきたい。</p>	4	B	学校教育課
<p>○「ステージ中津 491」との共催で開催した職人フェスティバルでは、88ヶ所の職人ブースに約 1,200 人の子どもが参加し、約 2,500 人の親子で賑わった。年々参加者、参加ブースが増加している。</p> <p>（前年度 75 ヶ所の職人ブース、990 人の子ども参加）</p> <p>○中津少年少女発明クラブは、小学 4 年生から 6 年生まで計 29 人が登録し、1泊2日の合宿を含め、年間 17 回の活動を行い、今年度は、本来の目的である発明にも重点をおいた指導で、大分県発明協会の発明工夫展に出品することができた。</p> <p>また、職人フェスティバルにおいても、発明クラブ指導達の協力を得て、科学体験教室を実施することができ、約 300 人の子ども達が様々な科学体験をすることができた。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○職人フェスティバルは、猛暑日が続く時期での開催となっているため、開催日や会場の見直しが必要である。</p> <p>○発明クラブは、今年度、発明につながる取組ができた。それをさらに充実させ、子ども達の豊かな発想を引き出して行けるよう指導者と連携して支援していく。</p>	4	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
15	2	K	図書館機能・読書活動の充実	<p>市民ニーズに沿った図書館運営と利用率の向上、学校図書館やボランティアグループなどとの連携による読書活動の充実、美術館等の近隣文化施設と一体化した連携を行い図書館利用の促進を図る。また、新規利用者の獲得のための手段や情報発信の方法を検討し、実施を図る。</p> <p>○図書館利用者の増加を目指すため、図書館だより等の広報活動を再考し、現在活動を行っていない場所で情報発信を行うことで、今まで図書館を利用していない市民に図書館の利便性を周知し利用者増を図る。</p> <p>○庁内各課と協力、連携し近隣文化施設との導線づくりを図る。</p> <p>○夏休みの休館日及び夏休み期間中の開館日も学生等に閲覧室、視聴覚室を学習スペースとして開放する。</p> <p>○各支所の分館ごとに地域特性を活かし、利用実態を分析し、利用者増に結びつける。</p> <p>○あかちゃんタイムや赤ちゃん読み聞かせ事業の充実、学校・図書館・ボランティア等と連携し、調べ学習や読み聞かせ資料の充実を図る。</p> <p>○移動図書館のサービスポイント見直しや、施設等の団体貸出の要望調査を行う。</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○常に利用者のニーズを把握し、図書館の情報を発信することで新規利用者の獲得を目指した結果、「あかちゃんタイム」等で利用促進を図ることができた。子育て世代の新規参加者が増加し、前年に比べ図書館の利用者数 (H29 延べ 129, 704 人→H30 延べ 132, 549 人)・貸出冊数 (H29 延べ 554, 834 冊→H30 延べ 564, 409 冊) がともに増加している。また、子育て世代の交流の場としての提供もできた。</p> <p>○庁内各課と連携し、児童・生徒の読書活動推進のため、指針となる「中津市子ども読書推進実施計画」を改訂し、「第2次中津市子ども読書推進実施計画」の策定を行った。 また、図書館の駐車場から、そのまま美術館へ行けるよう導線を確保した。</p> <p>○8月の夏休み期間中の火曜休館日に学習スペースとして2階閲覧室と視聴覚室を学生対象に開放すると共に、夏休み期間中に視聴覚室を開放することで学習環境の充実を図り学生の利用率の向上を図った。</p> <p>○各分館については、地域特性を踏まえた運営を心がけ、読書週間などのイベントやおはなし会の拡充、耶馬溪図書館の飲食可能スペースの提供、山国図書館独自のコミックス新刊本の増加など、それぞれの地域特性を活かした地域利用者への図書館利用増を図った。</p> <p>○毎週開催の「おはなし会」や月一開催の「あかちゃんタイム」・学校連携などが評価され、『子どもの読書活動優秀実践図書館』として文部科学大臣表彰を受賞し、各種イベント活動などについての様々な広報活動を実施している。</p> <p>○移動図書館車のサービスポイントの見直しを行い、3箇所増加と1箇所サービスポイントの変更を図った。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○図書館の利用サービスを知らない市民もいるので広く市民へ周知する。</p> <p>○更なる新規利用者の獲得を目指し、そのための広報や手段、情報発信の方法を検討して市民への図書館利用促進を図る。</p> <p>○市民の図書館利用率の向上を目指した各事業の充実を図る。</p> <p>○「第2次中津市子ども読書推進実施計画」の推進。</p> <p>○来年度にオープンする村上記念童心館、新中津市学校、歴史博物館や隣接する美術館などの近隣文化施設と定期的な情報交換を行い、連携・地域一体して文化施設の利用をアピールすることで相乗効果での図書館利用の促進を図る。</p>	5	A	小幡記念図書館

No	分類			目 標
	大	中	小	
16	3	L	生涯スポーツの推進	<p>大人から子供まで加入することができ、色々なスポーツを選べる総合型地域スポーツクラブの創設に向けて取り組む。また、様々なスポーツイベントを開催し、スポーツに触れあえる機会を増やし、定住圏域住民のスポーツ振興を図る。</p> <p>○5月の最終水曜日を「健康づくりの日」として施設の開放を行い、市民の健康づくりをサポートする。</p> <p>○市内の体育施設を利用して、様々なスポーツ大会や各カテゴリーの大会を誘致し、誰もが身近にスポーツと接する機会を増やす。</p> <p>○今年度もオリンピックデーランを開催し、定住圏域住民を含め広く誰もが参加できるスポーツイベントとして開催する。</p>
17	3	L	競技力向上及びジュニアの育成	<p>市体育協会や競技団体、学校、地域、企業などが連携し、人材の育成・強化に努める。</p> <p>○競技力の向上及び優秀な選手やジュニアの育成のために、優れた指導者の確保や育成が必要であり、全ての競技団体に「公認スポーツ指導者」や「スポーツ少年団認定員」等の資格取得を支援・推進していく。</p>



達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○新たな総合型地域スポーツクラブ創設については、なかなか創設までは進んでいない状況である。</p> <p>○スポーツイベントについては、オリンピックデーラン中津大会等の開催や市民体育祭の後援をすることで多数の市民の参加が得られたことや、市内各地で開催するマラソン大会にも今年も多くの市内外の参加者があり生涯スポーツの推進が図られた。</p> <p>(八面山平和マラソン参加者数 749 人、オリンピックデーラン中津大会参加者数 922 人、諭吉の里「なかつ」ハーフマラソン・ウォーキング大会参加者数 961 人)</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○総合型地域スポーツクラブの創設に向け、県の指導を受けながら学校や地域などと協議を進めていく。</p> <p>○イベントについては、引き続き、更に多くの市民を対象とした気軽に参加しやすいイベントを開催する計画を考える必要がある。</p>	4	B	体育・給食課
<p>○スポーツ少年団の認定員資格取得を説明会などで啓発し、取得者が増加した。(H29 年度 95 名→H30 年度 108 名)</p> <p>○スポーツ推進員の中津地区研修会として、パークゴルフの体験会に約 20 名の参加があった。</p> <p>○スポーツ推進委員が 2 名増加し、中津市全体としては 50 名体制となり生涯スポーツの推進や各種イベントでのボランティア活動の充実が図れた。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○引き続き、競技団体へは公認資格の取得推進やスポーツ少年団への加入促進を推進して行く。また、指導者や保護者、関係者向けの指導に関する講習会を定期的実施し、研修の場を設ける。</p>	4	B	体育・給食課

No	分類			目 標
	大	中	小	
18	3	L	市民ニーズに応えるスポーツ施設の整備や多機能多目的な施設利用	<p>市民のスポーツニーズに対応した施設の整備を行うことで、施設利用満足度を高め、多機能多目的な施設利用に柔軟に対応し、利便性の向上を図る。</p> <p>○誰もが、どこでも、安全に、安心してスポーツに親しむことのできる環境づくりを計画して行く。</p> <p>○市民要望の高い種目（フットサル等）に対応する施設整備及び、多機能多目的な施設利用対してのルール作り等を行っていく。</p>
19	3	L	東京オリンピック・ラグビーワールドカップ等事前キャンプ地誘致活動	<p>ラグビーワールドカップ 2019 公認キャンプの誘致には至らなかったものの、大分県で開催される大会の成功に向け、県と一体となった気運の醸成に努めていく。また、東京 2020 オリンピック・パラリンピックのキャンプ誘致については具体的な交渉段階に来ており、是が非でも MOU（覚書）の締結に繋げたい。</p> <p>○ラグビーワールドカップ 2019 開催に向け、市のイベントなどを利用して大会の機運醸成を行なっていく。</p> <p>○東京 2020 オリンピック・パラリンピック事前キャンプ地誘致としては、マレーシアを相手国として誘致を進めて行く考えだが、メインとなるバドミントン競技の誘致については、各方面に尽力いただき何としても決定できるように努力したい。</p> <p>○ホストタウン事業や周知活動、イベント等を積極的に行い、誘致に対して市全体が盛り上がるような機運の醸成を図る。</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○利用者のニーズを踏まえ、施設の利便性向上のための改修や修繕を実施した。(クライミングウォールをダイハツ九州アリーナに整備し、トレーニング室のボルダリング施設と併せて、子供から大人、高齢者の方まで利用できる施設が完成し、スポーツクライミングの環境の充実が図れた。また、田尻ソフトボールグラウンドのダッグアウトの設置や三光総合運動公園人工芝テニスコートの改修等を実施。)</p> <p>○安全・安心してスポーツに親しむための備品購入を行い、環境づくりに努めた。(市民プールに大型扇風機、救護室用クーラーを購入。)</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○市民のスポーツニーズ沿った市の振興に繋がるような施設にすべく整備を行なっていく。また、将来の財政負担や利用見込み等総合的要素を勘案した施設となるよう検討していく。</p>	4	B	体育・給食課
<p>○ラグビーワールドカップ 2019 開催に向けて、市内で行われたスポーツイベントにて、ラグビーブースを設置し、機運醸成に努めた。</p> <p>○東京 2020 オリンピック・パラリンピックについては、平成 30 年 7 月 2 日マレーシアと事前キャンプに関する MOU (覚書) を締結。</p> <p>その後、9 月 2 日よりマレーシア代表パラバドミントンチームがダイハツ九州アリーナで事前キャンプを実施し、キャンプ期間中にはマレーシア代表パラバドミントンチーム (選手 5 名、役員 3 名) と、大幡小学校の 6 年生 126 人とで「ふれあい交流学習」を行った。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○ラグビーワールドカップについては、大分開催に向けて県と連携し、引き続きイベントやPR活動を通じて大会の機運醸成を図っていく。</p> <p>○オリンピック・パラリンピックのキャンプ誘致については、マレーシアとの連携を密にし、パラバドミントンは基より他の競技についても事前キャンプを行えるよう調整を行なっていく考えである。</p>	4	B	体育・給食課

No	分類			目 標
	大	中	小	
20	3	M	文化施設の充実	<p>市民生活がより楽しめる文化的環境づくりを推進するため、文化芸術活動の場が提供できる文化施設の整備・充実に努める。</p> <p>○子どもから高齢者まで全ての市民が、鑑賞や自らの発表の場として、文化施設を活用できるよう施設の充実、利用機会の拡充に努める。</p> <p>○文化会館は建設後40年経過、木村記念美術館は31年経過しており、市民が安全に快適に施設を利用できるよう、老朽箇所等について必要な改修等を行う。</p>
21	3	M	文化芸術活動の推進	<p>文化芸術に対する市民ニーズを反映した取り組みを行うとともに、文化芸術団体との連携を強化する。</p> <p>各施設においては、多様な文化・芸術活動を展開しているが、より多くの市民が、芸術文化に親しむ場、また自らの活動の発表の場としても利用いただけるよう、情報の発信と活動の充実に努める。</p> <p>○文化会館、リル・ドリームについては、集客力のある文化イベントの開催を指定管理者とともに取り組む。</p> <p>○木村記念美術館については、これまでの取り組みを継続するとともに、さらなる事業の充実に努める。</p> <p>○市報やホームページ等、あらゆる媒体を使用して、中津市の文化・芸術活動の情報発信を行う。</p> <p>○国民文化祭への各種取り組みを通して、市民が文化・芸術に楽しみ、参加する機会を提供する。</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○中津文化会館については、老朽化していた舞台幕の全面改修及び事務所側2階女子トイレの改修を実施した。また、大ホールでの舞台や映画上映に使用するプロジェクターの導入、及びリル・ドリームの影響機器の更新を行った。</p> <p>○木村記念美術館については、屋根の防水工事及び空調機器の更新を行った。なお、老朽化が進み、利用者数も減少した別棟については施設の解体を実施した。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○文化芸術活動を推進するため、改修や修繕が必要と認められる箇所については、適切に整備を実施する。また、施設・機器等の老朽化状況を正確に把握し、予防保全の観点から、今後の改修及び機器更新の計画を立てて取り組む。</p> <p>(来年度実施予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化会館空調設備改修、タイル張替等</li> <li>・木村記念美術館別棟解体後の整地工事</li> </ul>	4	B	社会教育課
<p>○中津文化会館においては、年5回のスクリーン事業を実施し市民に映画鑑賞を楽しむ機会を提供した他、国民文化祭では指定管理者とともに市民ミュージカルの上演に取り組んだ。</p> <p>○木村記念美術館では、常設展に加え、2回の企画展及び県立美術館との連携展「おおいた美術散歩」を開催した。また、ギャラリートークやワークショップの実施や鑑賞講座等、年間を通して、各種の美術館活動に務めた。</p> <p>○「第33回国民文化祭・おおいた2018」「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」において、中津市実行委員会としてリーディング事業と3つの分野別事業に取り組み、それぞれ市内外から多くの参加者、観覧者が来場した。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○国民文化祭で醸成した文化振興への機運を活かしながら、市民ニーズを反映した文化芸術の取り組みを行うとともに、文化芸術団体との連携を強化する。</p> <p>○木村記念美術館については、これまでの取り組みを継続するとともに、今年度秋に開館する歴史博物館との連携等により、事業のさらなる充実強化を図る。</p> <p>○市報やホームページ等、あらゆる媒体を利用して、中津市の文化・芸術活動の情報発信を行う。</p>	4	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
22	3	N	資料館活動の充実	<p>新歴史博物館の開館準備として、収蔵品の移動、常設展示の展示解説の完成、展示年間計画の作成、活用案の作成を行う。また、既存の各館についても活用案を作成する。</p> <p>○収蔵品の移動 ○新歴史博物館の展示解説、年間計画及び活用案の作成。 ○新歴史博物館開館後を見据えた各館のあり方の検討。</p>
23	3	N	文化財保護体制の確立	<p>有形・無形文化財の調査・実態把握につとめ、重要なものについては指定を行い、保護の体制について検討を行う。</p> <p>○指定及び文化財の適切な保護を見据えた文化財調査を実施し、保護体制について委員会等の意見を踏まえ検討する。 ○新指定を目指すもの、指定の格上げを行うものについて検討し、指定の準備、申請を行う。</p>

達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○収蔵品の移動は、量の膨大さと保管環境に配慮しながらの作業となり、困難を要したが年度内に完了させた。</p> <p>○展示解説だけでなく、二つの動画製作、複数の模型制作など、開館に必要な作業を業者と協力しながら年度内に完成させることができた。また、活用案は大筋を決めることはできたが、詳細については次年度への継続作業となった。</p> <p>○耶馬溪風物館については、日本遺産センター機能をもたせた館とするための検討を行い、方針をまとめた。村上医家史料館と大江医家史料館については、新歴史博物館の常設展示との調整を行った。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○新歴史博物館開館に向け、市内にある複数の館それぞれが個性を持ち、魅力ある施設となるための取り組みを行う必要がある。</p>	4	B	社会教育課
<p>○中近世城館総合調査を計画的に進めており、調査・報告書の刊行を積極的に行なった。</p> <p>○平田城では痛んだ石垣修復方法を検討し、設計を行なった。</p> <p>○長者屋敷官衙遺跡では確認調査で国史跡同レベルの遺構を検出することができた。</p> <p>○平田邸では庭園調査を進め、国登録名勝庭園とするための申請書の提出まで進めることができた。</p> <p>○馬溪橋と平田城を市指定から県指定に格上げすることができた。</p> <p>○新歴史博物館開館を控え、積極的に調査や保存処理を行なった。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○高齢化・過疎化により、地域の有形無形の文化財は存続の危機にあるものが多く、地域の文化財は地域で守ることが理想である。地域の人々を助け調査を行い、価値の周知をすすめる、文化財を保護できる体制づくりを手助けする必要がある。</p> <p>新歴史博物館は、文化財保護のセンターとして機能することが求められている。</p>	4	B	社会教育課

No	分類			目 標
	大	中	小	
24	3	N	文化財の保存・活用	<p>名勝地・埋蔵文化財・有形文化財の監視体制の強化を検討し、名勝耶馬溪については、今後の適切な整備活用の方針を示す。 文化財の活用を耶馬溪観光に活かす方策を検討する一方、名勝耶馬溪における観光開発について文化財保護の観点から注意を払う。 また、日本遺産の活用を行う。</p> <p>○名勝、埋蔵文化財包蔵地を開発する際の届出等の周知、監視の強化を行う。 ○名勝耶馬溪整備計画の策定を進める。 ○日本遺産事業として地域住民とともに取り組む部会を設置し、文化財の活用を行う。</p>
25	4	0	教育委員会の機能強化	<p>総合教育会議等を通じて市長と教育委員会が緊密な連携をとり、両者が教育行政の方向性を共有し、より一層地域住民の意向を反映した教育行政の推進を図っている中、引き続き市長部局との連携強化を行う。また、教育現場の実態把握と関係機関との意見交換、教育委員の視察、研修機会の拡充を図る</p> <p>○総合教育会議などの市長と教育委員会が連携を図れる会議等を開催する。 ○学校現場を訪問するなどして、県等関係機関と教育行政についての意見交換を行う。 ○先進地視察など教育委員の研修機会の拡充に努め教育行政について研鑽を重ねる。</p>



達成状況	自己評価	総合評価	所管課
<p>○埋蔵文化財の開発に対する調査費用未払いを防ぐための方策を検討し、徹底したほか、名勝耶馬溪の保存整備活用計画の指針を策定した。耶馬溪の開発に対しては、事前に文化財との協議を行なうよう徹底をし、名勝耶馬溪の保護に努めている。</p> <p>○日本遺産事業として、耶馬溪のブランディングやブランディングを元にしたWEB制作を地域の人々で行なった。また、日本遺産認定をきっかけに、文化財保護や活用の動きが進んでおり、地域住民主体のイベントや観光ルート開発の動きにつながっている。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○長年課題であった修復が必要な史跡の整備を進め、文化財の適切な保存と市民への還元を行なう必要がある。</p> <p>○来年度開館予定の新歴史博物館や新中津市学校を活かして、文化財の保護と積極的な文化財の活用を進める必要がある。</p>	4	B	社会教育課
<p>○総合教育会議を年1回開催（平成31年3月27日開催）し、協議・調整を行った。</p> <p>○中学校の学校公開日に、教育委員と教職員との懇談会を開催し、相互に意見交換を行った。</p> <p>その他、年2回の学校訪問や運動会等学校行事の際、教育委員も出席し各学校の状況把握及び意見交換等行っている。</p> <p>○大分県市町村教育委員連合会総会（由布市：5/29）に参加し、「次期学習指導要領－英語教育」の研修を受け、研鑽を重ねた。</p> <p><b>課題及び来年度に向けての方向性</b></p> <p>○教育総合会議も含め市長と教育委員会が、相互に連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進していくことが求められる。また、総合教育会議の開催時期や形骸化とならないよう、引き続き市長部局と密な連携・協議が必要である。</p>	4	B	教育総務課

### Ⅲ 学識経験を有する者の知見

東九州短期大学 特任教授 松田 順子

教育は、人間の成長、発達の基盤であるとともに、社会の存続と発展の根っ子の部分であることは言うまでもありません。近年、人口減少、少子高齢化、グローバル化、ICTの進展、技術革新など社会情勢の変化の中、今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが成人して活躍する頃の社会は、厳しい時代を迎えているものと予想されます。一人一人が現代の豊かさを持続させる担い手として、また、社会の成長につながる未来へ挑戦する意欲や困難に耐える力など新しい価値を生み出していくことや可能な力をつけていくことが求められてきます。

特に大きな変化の一つとして、人工知能（AI）の飛躍的な進化を挙げることができます。人工知能が自ら知識を概念的に理解し、思考し始めていることも言われていますが、このことが、学校において獲得する知識の意味の大きな影響をもたらすのではないかと危惧されているところでもあります。

また、雇用においても大きな変化をもたらすことでしょう。しかし、教育はあくまでも人間の教育であり、人間そのものの存在にかかわるものですから、今まさに「教育とは何か」「人間社会とは何か」をもっと根源的にとらえていく必要があると考えます。ゆえに、創造的な教育実践をめざし、かつ、柔軟な教育の仕組みを見い出していくことが、重要であるといえるでしょう。何よりも子どもの成長、発達にかかわる学校、家庭、地域が創意工夫を十分に発揮できる環境の醸成を図っていかねばなりません。

こうした背景のもと、中津市では目標実現に向け「安心づくり」「元気づくり」「未来づくり」のスローガンを基本として「自立する力を育て、社会で活躍できる人材の育成」と「いつでも、どこでも、だれでも学べる環境づくり」を教育振興基本計画の基本構想とし、4点の項目を掲げ平成30年度に取り組みされてきています。このことにつきまして、資料などから判断できる範囲内で「点検・評価」をし、意見を述べることにします。

#### 施策毎の意見の概要

##### 1. 学びたい教育のまちづくり（学校教育）

###### (A) 学校教育の充実（義務教育の充実）

###### ・ 授業改善による学力向上

平成30年度は、全国学力・学習状況において、目標は達成できなかったものの、確実に全国、県平均を上回っている学校が増加しています。これは、ひとえにチーム学校による組織的な授業改善を行った結果だと評価できます。

###### ・ いじめ・不登校未然防止の強化

生徒指導3機能を生かし、魅力ある学校づくりを推進している現況にあり、指導主事、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーと共働し、さらなる早期対応が進められることに期待します。

(B) 学校教育の充実（小、中、高、短期大学との連携促進）

・ グローバル人材の育成

小、中学校教員の英語力向上と生徒自身の英語力向上は、全国的に求められている課題です。本市においても、ジュニア・グローバル・リーダー研修の応募者が昨年度より増加しており、その成果は確実にあらわれてくるものと思われます。また、APUでのイングリッシュキャンプや小・中・高・短大の連携、互いの授業交流の推進に期待を寄せるところです。

(C) 学校教育の充実（幼児教育の充実）

・ 魅力ある教育課程の編成、幼保小・民間事業所との連携

幼、保、認定こども園に関する幼児教育の重要性と整合性、また、市民の要望が組み込まれた「あそびのすすめ」（中津市乳幼児教育振興プログラム）の内容は、国規模で進んでいるものに匹敵するものとなっています。

今回の新教育要領が目指す、社会に開かれたものであると同時に、小学校への切れ目のない接続も十分に検討実施され、素晴らしい取り組みと評価できます。

(D) 学校の適正規模・適正配置指針検討

・ 学校の適正規模・適正配置指針検討

全国的に地方の学校は、当問題について頭の痛いところでもあります。本市も状況を把握し、協議をしっかりと行っていることが読み取れますが、地域住民との協議は大切な点です。全ての市民を巻き込んでの取り組みへと進展することを望みます。

(E) 安心安全な学校施設の計画的整備促進

・ 安心安全な学校施設の計画的整備

学校施設の改修、トイレ洋式化改修については、予算の前倒しまでして順調に行われており、この事案の執行に力を入れていることが分かります。引き続き行うための予算確保の方向性を打ち出していることにも評価は高いといえます。

(F) 学校給食の充実

・ 学校給食の充実

栄養教諭が中心となり、地元食材を使った新しい献立の開発と地産地消会議の推進により、市内の子どもたちの食育としての改善はよく図られています。

## 2. 学びたい教育のまちづくり（生涯学習・産業教育の推進）

(G) 生涯学習の推進

・ 生涯学習推進基盤の整備

「学びのすすめ」を誇る本市にふさわしい結果が表れていると言って良いでしょう。公民館、コミュニティーセンター、まなびん館での魅力あるプログラム開発です。

- 学習機会の拡充と学習効果の活用

新たに60歳以上になられた方に、老人会や女性団体連合会などへの入会が減少傾向にあり、個人での学びの形態へと変様しつつあります。

しかし、子供達の挑戦には、受講者拡大を図っていくことが重要かと考察できます。

#### (H) 教育の協働

- 中津市地域協育振興プラン推進事業

- 生涯学習センターの事業充実

三光地区は、合併前より三光村の「子ほめ事業」として「ほめあうまち、さんこう」の推進を図ってきた地区です。新市にその思いを広げ「協育の力」が世界に誇れるものを目指しているところは、大いに評価したいところです。生涯学習の広がりや深まりは、まず学校教育の充実と地域コミュニティにあると言って良いでしょう。今後の取り組みに期待します。

また、生涯学習センターは「だれでも、いつでも、いつからでも」学べる生涯学習の拠点施設としての機能を十分に発揮できていると評価します。

#### (J) 産業教育の推進

- キャリア教育及び職場訪問、職場体験の充実

- 多様な体験の場の活用

現代の子供たちの生活環境は、何不自由なく過ごせる生活形態と言えるところが多いでしょう。スマホ、テレビ、ゲームなど自分の欲求がほとんどボタン（スイッチ）一つで適えられる状況にあるといっても過言ではありません。

幼い頃より、不便さ、生きにくさ、不思議さに思いを巡らし、何かを発明・工夫したりする力は育成されにくいと言わざるを得ません。それゆえ、将来を考える多様な体験の場の提供は必要不可欠です。中津市商工会議所と連携し、社会に生きて働く礎となる体験活動は、今の時代必須のものでしょう。

また、職人フェスティバルと中津少年少女発明クラブでは、多くの民間力、指導者のもと、成果を上げていることは大変望ましいことと言えます。今後の子どもたちの豊かな発想を引き出していける方向づけに、大いに望みをたくしています。

#### (K) 図書館の充実

- 図書館機能・読書活動の充実

学校図書館やボランティアグループとの連携による利用促進は、大きな成果を上げているといえます。また、子育て世代への参加を促す試みや成果には目を見はるものがあります。「第2次中津市子ども読書活動推進実施計画」の内容が広く市民活動全般に行きあたり「学びたい教育のまち」に相応しい図書館活動の充実となるよう大いに期待します。

### 3. 学びたい教育のまちづくり（文化・スポーツの推進）

#### （L）スポーツの振興

##### ・ 生涯スポーツの推進

2019年の大分県で開催されるラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピックに向け、市民の盛り上げは例年になく大きく感じられます。「オリンピックデーラン中津大会」や「八面山平和マラソン大会」「諭吉の里「なかつ」ハーフマラソン・ウォーキング大会」は、市民全体のスポーツ熱向上に大きな貢献をもたらしたといえるでしょう。

##### ・ 競技力向上及びジュニアの育成

市体協、学校、地域、企業が連携し、素晴らしい人材育成を図ったことは十分に評価したいところです。引き続き、競技団体の公認資格取得推進やスポーツ少年団への加入促進に期待します。

##### ・ 市民ニーズに応えるスポーツ施設の整備や多様な多目的な施設利用

利用者ニーズの立場でダイハツ九州アリーナに、クライミングウォールやトレーニング室、ボルダリング施設を完成させ、スポーツに親しむ環境の整備こそスポーツ熱向上のための底上げと言えます。

##### ・ 東京オリンピック・ラグビーワールドカップ等事前キャンプ地誘致活動

ラグビーブースの設置やマレーシアとの事前キャンプに関するMOU（覚書）締結、ダイハツ九州アリーナを活用し、マレーシア代表パラバドミントンチームのキャンプ、また、大幡小学校との「ふれあい交流学习」など関係各位の努力と成果には、頭が下がります。

#### （M）歴史と文化の伝承

##### ・ 資料館活動の充実

新歴史博物館の開館に向けての作業は、困難を極めた作業であったでしょうが、年度内に完成させることができたことは大いに評価されるべきでしょう。

耶馬溪風物館に日本遺産センター機能をもたせること、また、村上医家史料館、大江医家史料館が常設展示となるための調整など、市のみではなく日本にとっても魅力ある財産となることは間違いありません。

##### ・ 文化財保護体制の確立

平田城と長者屋敷官衙遺跡は、国史跡、国レベルで非常に価値の高いものです。特に平田邸の庭園は、県の文化財委員会も推奨しており、その素晴らしさは、国登録名勝庭園について文句なしの評価を得ています。

新歴史博物館を基軸とした、地域の文化財発掘や保護、そして存続へと未来へ向けての機能に大いに期待を寄せています。

- ・ 文化財の保存・活用

日本に誇る名勝耶馬溪を有する中津市の文化財の活用については、少子高齢化が進み村落の活性が失われつつある最近、環境開発は地域創生の活力剤となることに間違いありません。

地域住民を巻き込んだイベントや観光ルート開発は、これからの中津の発展を占う大きな起爆剤です。

#### 4. 学びたい教育のまちづくり（教育委員会活動の充実）

##### （○）教育委員会活動の充実

- ・ 教育委員会の機能強化

市長と教育委員会が教育行政の方向を共有し、発展に向けた推進の強化は、市の教育・文化の進展には欠かせません。年1回の総合教育会議が実施され、濃い中味の検討が行われたことについては、大いに評価できます。できれば2回から3回行うことが可能であれば、更なる深まりが望まれるのではないかと考えます。

総合教育会議は、教育行政を実りある方向へと導く重要な会議です。また、学校訪問や学校行事の出席など学校現場との密な意見交換は、教職員にとって資質向上のためのよき刺激となることでしょう。

教育委員会の活性化は、市の教育・文化の向上に欠かせないものとなります。現に教職員のレベルアップと子どもたちの学力向上には、本市はめざましいものがあります。

教育委員会活動には数多くの業務がありますが、本年度滞りなく実行されていることは素晴らしいと思います。引き続き民意を反映した教育行政の推進に期待します。

#### 総合評価

平成30年度施策毎の取り組みとその成果を詳細に読み取らせていただきました。平成29年度の課題を精査し、新たな施策を打ち出し、それらを着実に取り組まれている点において、優れた成果が見られます。「暮らし満足No. 1のまち中津」の実現に邁進している内容となっていることが実感できます。

本市教育委員会所管の施策や事業を対象としていますが、随所に他の部署や関係部局と連携したものとなっていること、何にも増して全市民のニーズにも配慮された中味の濃いものとなっていますことに、次年度への期待が膨らみます。

#### IV おわりに


『中津市教育振興基本計画』においては、計画期間を通じて目指すべき教育の姿、基本構想として、次の目標を掲げています。

「安心づくり」「元気づくり」「未来づくり」を基本として


- ・ 自立する力を育て、社会で活躍できる人材の育成
- ・ いつでも どこでも 学べる環境づくり

これら目標の実現に向けては、さらに以下の（１）から（４）の４項目の達成を図らなければなりません。

- （１）義務教育修了までに、責任ある社会の一員として自立していくための基礎となる、知、徳、体、食にコミュニケーションを加えたバランスのとれた力を育てます。
- （２）学校、家庭及び地域住民その他の関係者が、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を図れる体制づくりを確立します。
- （３）誰もが生涯にわたり学ぶことができる環境を整備し、文化芸術活動やスポーツに親しむ機会を充実させます。
- （４）地域固有の文化・芸能の継承と保存整備に取り組みます。



自立する力



学習環境

平成 30 年度においては、4 項目を施策別基本目標、25 項目を具体的な施策として取り組んできましたが、全体目標の達成に向けて効果的かつ着実に推進するためには、事業の点検とその結果のフィードバックが不可欠であり、今回の施策評価の過程においても、多くの課題が浮き彫りになりました。そのため、実施した施策について、計画（Plan）→実行（Do）→評価（Check）→改善（Action）の PDCA サイクルにより適応性や目標達成度、有効性の観点から自己点検・評価を行い、これを市民に公表し、市民の意見等の把握・反映に努め、次年度以降の進行管理を行っていきます。

